なからぎの森

発行元：京都府立植物園整備計画の見直しを求める会
（通称：なからぎの森の会）
〒606-0851 京都市左京区下鴨梅ノ木町 62-2

アリーナ建設候補地 ――京都府が 2 地域の検討を開始

京都府は 8 月 3 日に「京都府におけるスポーツ施設のあり方懇話会」を開催し、問題になってきた巨大アリーナの建設について、その場所や規模の検討を始めました。さらに、8 月 25 日に、アリーナの建設の候補地となっている京都府立大学下鴨キャンパスと、向日町競輪場の現地視察を行っています。向日町競輪場がアリーナの候補地となることについては、この 6 月に向日市長が屋内体育施設（アリーナ）の誘致を表明したことによると思われます。

私たちはこの急な動きに対して以下のように考えています。

① 京都府立大学構内に巨大アリーナを建設する計画は中止し、老朽化した体育館や校舎を、2000 人の学生規模にあった施設として急ぎ建て直していただきたい。このままでは、学生たちの生命の危険さえもあり、知事の責任が問われます。

② 大きな屋内体育施設（アリーナ）が必要ならば、京都府内の他の適切な場所に建設することを求めます。その際、アリーナの規模（収容人数）や設備、管理運営については、予算や採算性を十分に考慮されること、該当する地域住民の声をまず聞くことが求められています。

③ 7 月には京都市が西京極運動場の再開発についてサウンディング調査（民間事業者の提案募集）を提起しているように、西京極でさえも採算が取れていないことが分かっています。アリーナ建設の候補地は府や市の既存施設・所有地や民間所有の施設を含めて、競技団体、府民・市民の十分な合意を取って進めていただきたい。

雨ニモマケズ風ニモマケズ
雪ニモ夏の暑サニモマケヌ

祝 100 回達成！

植物園前定例署名宣伝
2021.6.5～2023.8.26

2021 年 6 月から始め、毎週土曜日に行ってきた植物園・北山エリアを守る定例署名宣伝が 8 月 26 日（土）に第 100 回目を迎えました。この間にのべ 1500 名を超える方にご協力をいただきました。8 月 29 日までの署名総数は **159, 171** 筆になっています。

「北山エリア整備基本計画」の撤回を求める署名と、新たに「北山エリアを考える府大関係者の会」が「大学に巨大商業アリーナはいらない！」署名を集めています。まだ署名されていない方はこちらにもお願いします。

植物園が植物園として充実されるように、府立大学が教育の場として残されるように、北山エリアが自然にあふれた静かな文化教育の場所としてあり続けられるように、これからも署名を集めてまいります。どうぞよろしくお願いします。

報告・交流集会 「府立植物園・北山エリアの今 —— 再開発の計画はどうなっているのか？」 を開催しました

◆7 月 29 日に京都学・歴彩館で報告・交流集会を開催し、猛暑にもかかわらず会場いっぱいの 120 名の方にご参加いただきました。北山エリアについて、京都府の計画の現状と私達の活動による進捗点と課題を明らかにし、広くお知らせすることができました。YouTube による会場動画と報告資料をなからぎの森の会のホームページ（https://nakaraginomori.com）で見ることができます。

◇ 府立植物園開発計画の見直しによって、北山通り・半木の道沿いの樹木伐採、商業施設の建設、芝生地のステージ、イベント利用の記述がなくなったことは評価できるけれど、府立大学内に商業アリーナが作られること、植物園会館が拡大され、レストランや入口が増やされること、樹木が伐採されることなど、大きな懸念が残っています。

◇ 府立大学の体育館については、「学生のための体育館」の建設、老朽化した校舎の耐震化が 1 日も早く実施されることを京都府に求めていきます。

◇ 旧総合資料館跡地については、5月 19 日に府に申し入れを行い、解体・整備の計画について住民説明会を開催することの約束を得ています。

跡地の利用についても、府民・住民の声を聞いて一から練り直していくことが重要です。

わたしの提案

次世代の京都のためには、旧資料館跡地は植物園への編入がベストだ

谷 誠（京都大学名誉教授・森林水文学）（左京区在住）

人間は自然にはたらきかけて農地や都市を造り、暮らしを豊かにしてきました。けれども、人間の食料や生活は生物資源に依存するので、社会はそれに制限されます。しかし残念ながら、人々の欲求を掻き立てて資源を浪費することが経済発展や選挙公約に必要なので、この点は無視されやすい実態があります。とはいえ、地球環境の劣化と資源枯渇が危機的なってきた現代では、食料や木材やその他生物資源の生産を支えること、現状のインフラ（上下水道や道路や防災設備など）を守り活かすこと、この両方が次世代の社会の持続性を築くための絶対条件です。ですから、どうしても必要な府立大学の施設改修は別として、新たな建物などは極力造らず、残された樹林を減らさないようにするべきです。

ところで森林は、建物や道路はもちろん草地よりも蒸発量が多い特徴があり、日射の大半を気化熱として消費して大気加熱を抑え、気温を下げます。ただ都市の中の小面積の樹林では、広い範囲に効果を及ぼすとまではいえません。建物と樹林がモザイク状に分布するのがベストなのですが、私は、選択の方向性に注目したいと思います。樹林を増やすのか、減らすのか、これによって、次世代を大切にするのか、目先の欲求を追求するのかが決まります。 以上の理由により、旧資料館跡地は樹林とし、植物園に編入して経験豊富な技術職員に管理を任せるのが最適だと思います。なお、詳細については https://hakulan.com/wp/ をご覧ください。

（植物園を守りたいと希求される方にお願いして「私の提案」を、随時書いていただきます。）